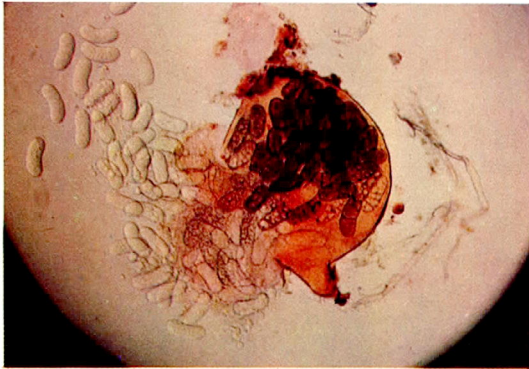


牧草の線虫(2)

農林省 北海道農業試験場 病理昆虫部
技官 湯原 巖



1) クロバーシストセンチュウ

(*Heterodera trifolii* G OFFART 1954)

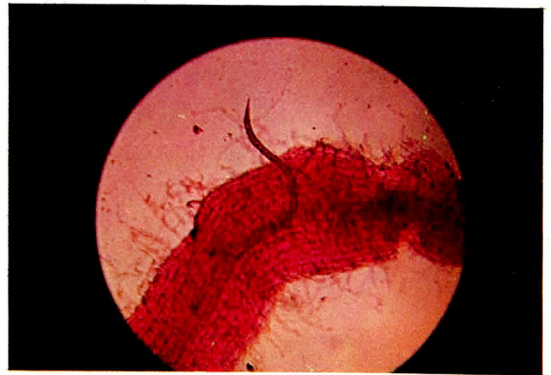
この線虫は北海道でダイズ、アズキ等に被害を与えているダイズシストセンチュウによく類似し、*Heterodera schachtii* のグループに属するが、ダイズ、ビート等には寄生せず、白、赤クロバー、タデ科のギシギシ、ハコベ等に寄生する。土壤中に浮游する線状の2令幼虫(体長 498μ 、体幅 19.7μ)は根に侵入し、口針で養分を摂取して3、4令幼虫と発育して白色レモン状のケシ粒様の雌虫(体長 705μ 、体幅 462μ)を根の表面に露出形成する。これが成熟するとBrown Cystとなり、土壤中に脱落し、その中に卵、幼虫を包含する。この線虫の加害、被害についての詳細な調査はあまりないが、最近、CHAPMAN, R, A (1963) は接種試験で寄生が甚しい場合、生育、収量に影響を与えることなどを報告している。

本道では今までの調査で十勝、天北、宗谷地方の牧草栽培地に広く分布していることがわかった。

クロバーシストセンチュウ

写真(1) 卵を包含する Brown Cyst.

(2) 根に侵入する2令幼虫



2) 外部寄生性線虫

北海道でよく知られているキタネコブセンチュウ、キタネグサレセンチュウのように植物内部組織中に侵入し寄生生活を行なう内部寄生性線虫とは異なり、植物の体外、とくに根の周辺にあって根組織に口針を入れ養分を摂取し、飽食すると根をはなれ、空腹になるとまた根に寄り添う寄生様式の外部寄生性線虫がある。この線虫は主な特徴として頭部にある口針が長く強大なものが多く、普通種はだいたい 20μ 程度までなのに対し、この種のもは $40\sim 100\mu$ 以上もある。本道で発見されている主なものはピンセンチュウ(*Paratylenchus*)、ワセンチュウ(*Criconemoides*)、ラセンセンチュウ(*Helicotylenchus*)、オオガタハリセンチュウ(*Xiphinema*)、等である。これらの線虫は牧草地、畑作地、果樹栽培地などから検出されているが、内部寄生性線虫のようにその被害の現われ方が明瞭でなく、その判定はなかなか困難である。本道では各地に広く分布しているので、今後、充分注意しなければならない線虫である。

外部寄生性線虫

写真(3) ワセンチュウ

